

# 米沢興譲館高等学校 SSH 通信

## 令和5年度 SSH 講演会

11月6日(月) 東京大学 教授、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 副機構長 横山広美氏を講師にお招きし、本校記念講堂を会場にして、SSH講演会「好きなことと、得意なことー文理選択の広がりー」が実施されました。  
 また、講演後には、山形大学有機材料システム研究科 教授 城戸淳二氏も交えて座談会も行われました。好きなことについて、文理選択について、CSS部の研究についてなど様々な質問に対し、横山先生、城戸先生からご助言をいただきました。

### 「好き」から広がる学問の幅

1年 男子

好きなことと得意なこと。この二つのうち、どちらをとればよいのかという問いに対して思いを巡らせたことが一度はあるだろう。講師の横山広美教授は、「文理選択は自分の好きな分野で決めるとよい。なぜなら、好きなことに対して人が持つエネルギーはものすごいからだ」と言っていた。それを踏まえて、文理選択は自分が直感的に好きだと思う分野で選べばよいと思った。「好き」が生み出すエネルギーのまま突き進んだ先に、将来の夢が見つかると思う。それと同時に、「穴を深く掘るには幅がある」という言葉を思い出した。ある分野を深く学習するには、それ以外の分野の知識もある程度必要という意味だ。自分の好きな分野を深く学ぶためにも、それ以外の分野にも一生懸命取り組むことも必要なのだ。よく言われる「勉強しろ」の真意にたどり着けたような気がした。



### 自分らしく能力を発揮する心構え

2年 男子

講演をしていただいた横山広美さんは、素粒子物理学で博士号を取得しているが現在はAIと倫理についてや、科学とジェンダーに関してなど科学と社会を結びつけ文理を横断した研究を行っている。

横山さんが理系、文系といった枠組みに囚われないのは自身の興味に素直に従っていることや科学で社会をより良くしたいという思いがあるからだ。この姿勢は私たちがSSRの研究を行う上で参考にするべきだと感じた。

また印象的なお話は、夢は口に出すことで叶うということだ。横山さんは大学に入学した時に興味があった仕事の事を周囲の大人にアピールしたそう。そうすることで夢に関わるさまざまな出会いが訪れたという。私は自分の興味を口に出すようにすることの大切さを知った。

今回の講演はダイバーシティが進むこれからの社会で誰もが能力を発揮していくための心構えを学ぶとてもよい機会だった。



### 文理選択の広がり

1年 女子

今回、講演をしていただいたのは、東京大学の教授である横山広美先生だった。横山先生は、科学哲学の分野に深く携わっており、科学によって問うことができても、科学では答えることができないことを対象とした研究を行っている。科学技術のみで解決できるものはごく一部で、社会との関わりが常にあり、トランスサイエンスの視点が求められることを忘れてはいけないのだと学ぶことができた。

横山先生は、やりたいことを常に人に言うことで多くのチャンスや、そのことに関する情報が得られるとおっしゃっていた。やりたいことには、自分から近づいていかなければいけないということを理解できる良い機会であった。

講義の後の座談会もとても充実したものであった。その中で横山先生が熱心に話されていたのが、女性科学者の拡大についてであった。男性、女性の隔たりがなく、能力、実績で評価される時代が来ることを期待していきたい。



米沢興譲館高等学校 SSH 講演会

11.6月

13:45~15:35

<受付 13:10~13:40>  
米沢興譲館高等学校 記念講堂

講師：横山 広美

<略歴>  
 東京大学教授(科学技術社会論)、  
 東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)副機構長、  
 東京大学学際情報学文化・人間情報学コース大学院准教授、  
 独立行政法人高等専門学校機構理事、  
 科学と社会に関する広い領域を研究されている。主に「AIなどの倫理的社会的課題研究」、「ビッグサイエンスの社会学」、「境界線制作」、「科学とジェンダーに関する研究」、「科学者の社会的責任の研究」などを行っている。  
 2022年に第5回東京理科大学物理学賞、2015年に科学技術社会論学会学術内賞研究奨励賞、  
 2007年に科学技術ジャーナリスト賞を受賞されている。

演題

「好きなことと、得意なことー文理選択の広がりー」

申し込みは不要です。 主催：山形県立米沢興譲館高等学校 SSH事務局  
 御来校の際には上履きを お問合せ：TEL 0238-38-4741  
 ご持参ください。 FAX 0238-38-2531

